



議会活性化等特別委員会の委員長に就任しました

2017年2月の定例会において、市民に開かれた議会の実現に向けて、さらなる議会活性化を推進するための調査・研究を行う「議会活性化等特別委員会」の設置が全会一致で決まりました。各会派から1名ずつが参加し、計8名の委員で構成する本委員会には、私が会派を代表して参画し、また選挙の結果、委員長に選任されました。

調査・研究する内容

- (1) 議会報告会の開催に関すること
- (2) 議会のICT化の推進に関すること
- (3) その他議会活性化に関すること



活性化に関して幅広く取り組めます。全体像を見据えつつ、対象を絞り込み成果を出していきたいと思います。

議 会

- ICT化の推進
(プロジェクト活用、タブレットやグループウェアの導入等)
- 議員間討論の活性化
- 政策条例策定体制構築
- 通年議会の導入
- 委員会構成の検討

- 議会報告会や公聴会、意見交換会の開催
- 議会の休日開催
- SNSを活用した情報発信

市 民

- 執行部に対して、反問権や確認権を付与

行 政

議会をより活性化していくための取り組みイメージ



「何をもって活性化をするのか?」「そもそも活性化している状態とはどのようなものなのか?」など、委員個々の考え方や思惑は様々だと思います。議会全体の取り組みとしてまとめる難しさはありますか、共通認識を持ち、前向きに取り組める意義ある委員会となるよう、委員会の長としての責務を果たしていきます。

鉄道高架事業に対する新市長の考え方が明らかに！

議会の答弁で示された、鉄道高架事業に対する新市長の考え方をご紹介します。市長となった後、様々な情報や考え方につれて触れる中で、自らの考え方を整理し構築していったようです。



- ◎ 今必要なのは、世界一元気な沼津となるために前に進むこと。
- ◎ 私自身できる限りの検証をしてきた。もう答えは出ている。
- ◎ 鉄道高架化の効果は明快で、そこに異論を唱える方はいない。
- ◎ 沼津の閉塞感を打ち破るために、鉄道の高架化が必要。

事業の効果について

- 将来的な発展の可能性がある都市として広く認知されることがまちづくりに不可欠。鉄道高架はその引き金になる。
- 駅南北の交通問題が解決し、自動車の渋滞がなくなる。南北の市街地が一つの、より楽しめるまちになる。沼津港とのつながりの中で、駅周辺が西伊豆の玄関口になる。
- 都市の価値を高めることは、特に固定資産税の增收につながり、財源確保に資する。
- 民間の更なる投資意欲を高め、結果として定住人口および生産年齢人口の増加につながっていく。こうした好循環から、駅周辺のみならず市全体が発展していく。

南北自由通路について

- 県は、鉄道高架事業を進める中で南北自由通路を仮設で整備することを表明した。新貨物ターミナルの用地買収後、6年後をめどに南北自由通路を設置できるよう、既に設計委託をしていると聞いている。
- 南北自由通路を早期に実現するためにも、鉄道高架事業の推進不可欠。鉄道高架事業以外の手法で南北自由通路を実現することは、事実上不可能。

財政について

- 今後も適切な行財政運営をしていくことで鉄道高架事業推進していく。
- 沼津の将来のことを思い、70%の方から土地を提供して頂いた。今からやめるとなると、予想される大きな解約金の発生や、これまで投資した100億円以上ものお金や提供いただいた土地が無駄になる。
- 私自身が地権者の皆様に協力をお願いし、全力で取り組んでいく。

事業の検証について

- 県により国内最高の知見をもって構成された有識者会議およびP1プロジェクトのアウトプットは、極めて公正で説得性がある。そのプロセスは、約3,000人もの市民と公平に意見交換を行うなど、市民の意見に重きを置いてきたもの。これまでの議論の内容および進め方等は適切であった。県が実施した検証には、3年の年月と約2億円の経費が費やされた。市として、改めて検証を行うべきではない。
- 事業の推進を前提に、最新の事業費・スケジュール・財政見通し等について、わかりやすく徹底して情報公開をすることで市民合意を得ることこそが最大の検証。

深田のぼるよりひとこと

沼津市の放課後児童クラブの運営について、調査・研究を進めています。保護者が安心して働き、子どもたちが安全に過ごせるよう、運用ルール改善の働きかけをしていく予定です。詳細は別途報告させて下さい。鉄道高架事業はいよいよ進む兆しが見えました。事業の投資効果を最大限高めていくよう、鋭意取り組みます。

ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。

